

Q & A 全科共通

Q 1 推薦入試の出願資格の「第1志望とする」は「専願とする」とどう違うのですか？

A 1 「第1志望とする」は、他校と併願することができますが、本学に合格した時は本学に入学することを言います。「専願とする」は、他校と併願できません。また、「専願とする」入試又は「第1志望とする」入試で合格した場合、必ず本学へ入学するものとし、以降実施される本学の入試を再度受験することはできません。

Q 2 推薦入試での調査書や推薦書はどの程度合否の判定に関わりますか？

A 2 面接の評価に反映させます。

Q 3 推薦入試では「全体の評定平均値」はどの程度合否の判定に関わりますか？

A 3 出願資格を満たしていれば、それ以上合否の判定に関わりません。

Q 4 奨学生入試とはどのような入試ですか？

A 4 奨学生合格者には1年次50万円、2年次30万円を支給する選抜入試です。奨学生は、入学試験の結果及び高校の調査書を基に総合的に評価し選考します。なお、奨学生に合格できなくても、試験結果が良好な者は一般合格者とします。どちらも専願の拘束はありません。

Q 5 奨学金の支給はどのようになりますか？

A 5 1年次は50万円を入学後の6月と10月の2回に分けて現金支給します。2年次は1年次の成績が一定の水準を下回る場合や生活面で著しく問題のある場合を除き、継続して30万円を6月と10月の2回に分けて現金支給します。

※「一定の水準を下回る場合」の定義は「単位修得科目の成績で、可が全体の4分の1以上の場合、又は修得単位が30単位に満たない場合」とします。

Q 6 奨学生入試・一般入試の「国語総合」「英語」の問題傾向はどういうものですか？

A 6 「国語総合」と「英語」は一部を除き全科共通の問題です。「国語総合」は日本語日本文学科、「英語」は英語英文科のQ & Aを参照して下さい。

Q 7 コースの志望はいくつまで書けますか？

A 7 第2志望まで志望できます。第2志望を無記入で提出するのは合否判定上不利になることもありますので、必ず記入して下さい。

Q 8 志望コースの合否判定はどのように行うのですか？

A 8 第1志望コースを優先して判定します。

Q 9 入学後のコース変更は可能ですか？

A 9 音楽科のコース変更は可能です。(1年終了時に希望者にはコース変更試験があります)

Q 10 入学後の転学科は可能ですか？

A 10 可能です。次年度の1年生に転学科しますので、短大に3年間もしくは4年間在学することになります。転学科するためには転学科試験に合格しなければなりません、また転学科できる人数には科ごとに制限があります。

Q 11 学士取得コースとはどのようなものですか？

A 11 本学で4年間学修することで、学士の学位取得を目指すコースです。このコースを希望できる学科は日本語日本文学科、保育科、音楽科の3学科です。

Q 12 学費等納入金の返還は可能ですか？

A 12 いったん納入された入学検定料・入学金はいかなる理由があっても返還しません。ただし、授業料その他納入金(入学検定料・入学金は除く)は、出願資格として専願又は第1志望とすることを条件にしている入試を除き、平成23年3月31日(木)までに(窓口・電話の場合は17時まで、またメール及びファックス等の場合は深夜0時まで受付けます)入学辞退の申し出があり、必要な手続きを完了した場合は授業料その他納入金は返還します。

Q 13 高校を卒業して数年が過ぎています。調査書は提出しなくてはいいませんか？

A 13 原則として高校を卒業して5年以内の方は提出して下さい。高校によっては保管期間が過ぎ発行できない場合もありますが、その時は本学にご連絡下さい。その場合は卒業証明書を取り寄せていただくこととなります。さらに、大学・短大等を卒業されている場合は、大学・短大等の成績証明書を提出していただく場合もあります。

Q 14 過去に大学入学資格検定に合格したのですが、受験できる入試はありますか？

A 14 出願資格に「高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者」と明記されている入試は受験することができます。入学志願票(A票)の高校コードは「51000k」と記入して下さい。成績証明書は大学入学資格検定に合格した時のものの写しを添付して下さい。

Q15 奨学金の貸与制度はありますか？

A15 本学独自の奨学金貸与制度はありません。公的な奨学金や教育ローンを以下にご紹介します。

①日本学生支援機構の奨学金

日本学生支援機構の奨学金は、貸与奨学金で経済的理由により修学が困難がある優れた学生等に対し貸与されます。奨学金貸与終了後は、返還の義務が生じ、毎月決められた金額を返還していただくことになります。奨学金には「第一種奨学金（無利子貸与）」と「第二種奨学金（有利子貸与）」があります。詳しくは、日本学生支援機構のホームページ <http://www.jasso.go.jp/> をご覧下さい。

②国の教育ローン（日本政策金融公庫）

入学時や在学中に必要な資金を融資する公的な制度です。詳しくは日本政策金融公庫のホームページ <http://www.k.jfc.go.jp/> をご覧下さい。

Q16 特別な事情が発生した場合、在学中に長期履修学生へ変更できますか？

A16 長期履修学生へ変更できます。ただし、1年生の学年末までに申請した場合に限ります。認められた場合、学費も残りの在学年数に応じ、分割して納めることができます。

Q17 学費以外の課程費はどのくらいかかりますか？

A17 平成21年度実績は次のとおりとなりますので参考にして下さい。金額は改定される場合があります。

学科	項目	納入時期	納入金額
日本語日本文学科	司書課程費	1年次 前期	30,000 円
	第Ⅰ期教職課程費（中学校）	1年次 後期	12,000 円
	第Ⅱ期教職課程費（中学校）	2年次 前期	18,000 円
	介護等体験費（中学校）	2年次 前期	17,000 円
	中学校教諭二種免許申請費	2年次 後期	3,700 円
	プレゼンテーション実務士資格認定証交付申請費	2年次 後期	5,000 円
	英語英文科	司書課程費	1年次 前期
第Ⅰ期教職課程費（中学校）		1年次 後期	12,000 円
第Ⅱ期教職課程費（中学校）		2年次 前期	18,000 円
介護等体験費（中学校）		2年次 前期	17,000 円
中学校教諭二種免許申請費		2年次 後期	3,700 円
幼稚園教諭課程費		1年次 前期	20,000 円
幼稚園教諭課程費		2年次 前期	20,000 円
教育実習課程費（幼稚園）		1年次 後期	28,500 円
幼稚園教諭二種免許申請費		2年次 後期	3,700 円
J-SHINE（小学校英語指導者認定）申請費		2年次 後期	6,000 円
プレゼンテーション実務士資格認定証交付申請費		2年次 後期	5,000 円
保育科	保育実習課程費（保育所・施設）	1年次 後期	38,300 円
	保育実習Ⅱ・Ⅲ課程費（保育所または施設）	1年次 後期	13,700 円
	合計		52,000 円
	保育士登録申請費	2年次 後期	4,600 円
	教育実習課程費（幼稚園）	1年次 後期	28,500 円
	幼稚園教諭二種免許申請費	2年次 後期	3,700 円
	レクリエーション・インストラクター資格認定課程費	1年次 後期	5,250 円
	レクリエーション・インストラクター資格登録費	2年次 後期	16,000 円
	児童厚生二級指導員資格認定課程費	1年次 後期	3,000 円
	児童厚生二級指導員資格登録費	2年次 後期	10,000 円
	ネイチャーゲームリーダー養成講座課程費	履修年次 前期	6,500 円
	ネイチャーゲームリーダー登録諸経費	履修年次 前期	10,300 円
	モンテッソーリ教師認定申請費	2年次 後期	4,400 円
音楽科	第Ⅰ期教職課程費（中学校）	1年次 後期	12,000 円
	第Ⅱ期教職課程費（中学校）	2年次 前期	18,000 円
	介護等体験費（中学校）	2年次 前期	17,000 円
	中学校教諭二種免許申請費	2年次 後期	3,700 円
	音楽療法士2種課程・実習等賠償責任保険	1年次 前期	680 円
	音楽療法士2種課程・保育所観察実習	1年次 後期	13,000 円
	音楽療法士2種課程・音楽療法体験実習	2年次	123,000 円
	音楽療法士2種資格申請費	2年次	30,000 円
	音楽療法士1種課程・音楽療法体験実習Ⅱ	専攻科1年次	89,000 円
	音楽療法士1種課程・音楽療法体験実習Ⅲ	専攻科2年次	73,000 円
	音楽療法士1種資格申請費	専攻科2年次	30,000 円
	訪問介護員2級・第1期介護体験実習	本科2年・専攻科生履修年次	57,000 円
	訪問介護員2級・第2期訪問介護サービス同行訪問実習		3,000 円

【学科試験について】

Q 1 日本語日本文学科の国語問題の内容はどのようになっていますか？

- A 1 ①奨学生入試（国語総合・古文、100点満点、60分）
現代文と古文1題ずつです。
- ②一般入試 前期日程（国語総合[古文選択可]、100点満点、60分）
時間60分の中で2問を解答します。うち1問は現代文で必須です。残り2問の現代文と古文から1問を選択することになります。事前に申請する必要はなく、試験会場で問題を見てからどちらを解答するか決めることができます。なお、3問解答した場合、あるいは、必須問題を解答せずに残り2問を解答した場合には、答案が全て無効となりますので、注意して下さい。
- ③一般入試 後期日程（国語総合、100点満点、60分）
現代文のみ2問です。

Q 2 問題の傾向は？（全科共通）

- A 2 ①国語総合（現代文）は次のような問題が出ています。
- 1) 漢字の読みと書き取りの問題
 - 2) 空欄補充に関する問題
 - 3) 語彙（文法的なことも含めて）を問う問題
 - 4) 段落に関する問題
 - 5) 内容把握の問題
 - 6) 文中での言い換え
- 一般的な大学入試問題とあまり変わりません。内容としては、話題性のあるもの、日本文化論、芸術論などの評論、又は旅に対するエッセーなどが選ばれています。
- ②古文は次のような問題が出ています。
- 1) 基本単語・重要単語の意味を問う問題
 - 2) 現代語に訳す問題（選択肢・記述とも）
 - 3) 内容把握の問題
 - 4) 文法に関する問題
 - 5) 文学史に関する問題

Q 3 センター試験の国語教科の「国語」の内、現代文・古文・漢文の点数の算出方法は？

- A 3 本学がセンター利用入試の際に利用する「国語」点数は、近代1+近代2の合計点（100点満点）と古文+漢文の合計点（100点満点）を比較し、どちらか高い方の得点を200点満点に換算し、合否判定に使用します。

【体験入試（前期日程・後期日程）の体験授業と面接について】

Q 3 前期日程、後期日程に違いがありますか？

- A 3 実施時期の違いがあるだけで、内容は同じです。ただし、実施対象学科は前期日程は全科となりますが、後期日程は日本語日本文学科・英語英文科・音楽科のみです。

Q 4 なぜ体験授業なのですか？

- A 4 短大の授業では、自ら疑問を持ち考え実行してみることが大事になります。言葉遊びや簡単な詩作等の作業を通じて授業への参加意欲を見ていきます。

Q 5 体験授業に対して準備する物がありますか？

- A 5 筆記用具は必要ですが、他には特にありません。

Q 6 体験授業の内容はどのようなものですか？

- A 6 今年度のテーマは「あをによし奈良の都ー平城遷都1300年ー」です。授業内容についてはオープンキャンパスにおいて、予告できるようにしたいと考えています。なお、前期日程・後期日程ともに同じ内容で行います。

Q 7 時間はどのくらいかかりますか？

- A 7 授業の時間は40分程度となりますので、ほぼ高校の授業と同じ位と考えて下さい。講義の後、まとめる作業が入りますので、合計60分となります。

Q 8 体験授業が終わったら何かを提出するのですか？

- A 8 授業内容をまとめて提出します。所要時間は20分です。

Q 9 面接について？

- A 9 面接は推薦入試の質問を参考にして下さい。

【推薦入試について】

Q 10 国語基礎力調査とはどのようなものですか？

- A 10 漢字検定準2級以上を取得している方が免除されていることから分かるように、漢字の読み書き能力が中心となります。他に語彙力＝言葉の意味（例：四字熟語の意味、反対語、同義語などが当てはまります）を尋ねます。漢字検定の問題集をやったことがあればおおよその傾向は分かるだろうと思います。50点満点、時間は30分です。

Q 11 面接を受ける上で注意することは？

- A 11 面接は、基本的に人物と適性を判断するためのものです。従って、面接で学力を判断することは、原則として行いません。面接の答えはそれをきっかけにして話題が展開することがあります。単発の答えでなく、関連付けることができるようにしておくことも大切です。
- 文学史などの専門知識は入学後に学べば良いことではありますが、著名な作家や、作品に関する基礎的、あるいは常識程度のことは問うこともあります。クラブ・生徒会・ボランティアなど高校時代の活動なども尋ねます。

【奨学生入試・一般入試について】

Q 1 奨学生入試と一般入試との違いは何ですか？

A 1 違いは2つあります。1つは奨学生入試では英語にリスニングが含まれ、一般入試ではリスニングがないこと。もう1つは、英語の問題が、奨学生入試は英検準2級くらいのレベルで、一般入試はそれよりやや易くなっていることです。両方とも問題の傾向は似ています。

Q 2 奨学生入試と一般入試の問題はどのような傾向ですか？（全科共通）

A 2 英語（100点満点、60分）で主な出題傾向は次の4点です。

- 1) 長文読解
- 2) 文法・イディオム・語彙（高校1年程度のレベル）などに関する問題
- 3) 作文問題（整序問題など実際の運用力をテストするもの）
- 4) 会話的表現に関する問題

※上記以外に奨学生入試にはリスニングがありますが、時間は10分程度で配点は20点前後です。

【推薦入試について】

Q 3 推薦入試と体験入試がありますが、この2つの入試にはどのような違いがあるのでしょうか？

A 3 推薦入試では、面接と英語の基本的な運用能力を図る「英語基礎力調査」（50点満点、30分）を行います。一方、体験入試では、「面接」と適性検査として「体験授業」を行います。両者とも、面接を重視した上で、総合的に判断します。

Q 4 英語基礎力調査の問題は、どのような傾向で出題されますか？

A 4 問題は、4～5つの選択肢の中から選んで、答える形式になります。リスニングの問題はありません。出題傾向の主なポイントは、①文法・語彙、②読解、③会話表現の3点です。

Q 5 面接では、どのような点に注意したら良いのでしょうか？

A 5 面接は、基本的に人物と適性を判断するためのものなので、学力を試すことはありません。高校からの調査書に記入されている事柄や、志願票に書かれたことを基に質問します。質問に対しては、「はい」、「いいえ」といった単発の答ではなく、自分で関連付けて話ができるようにしましょう。高校生活のこと、また志望動機や短大に入ってどんな学習をしたいかなど、はっきり説明できるようにしておきましょう。

【体験入試（前期日程・後期日程）について】

Q 6 体験授業とはどんなことをするのですか？

A 6 英語圏の文化に関連する資料（映像、ポスター）が示され、その授業に参加した皆さんが、それらについて感想や意見を出し合います。そこで、英語英文科での授業に対する適性があるかどうかを見ます。

Q 7 時間はどのくらいかかるのですか？

A 7 話し合いを含めて、体験授業全部で60分です。

Q 8 前期日程と後期日程で同じことをするのですか？

A 8 そうです。同じような内容です。

【ピアノについて】

Q 1 ピアノを全く習ったことがないのですが？

A 1 入試によってはピアノ実技試験を課さない入試もありますが、ピアノの一定レベルの習得は保育士や幼稚園教諭を目指す人には必要なことですので、なるべく早くから習うようにして下さい。

Q 2 ピアノの経験が浅いので入学後が心配です。大丈夫でしょうか？

A 2 本学は少人数制による2年間のピアノ指導体制をとっています。担当教員から、個人レッスンが受けられますので心配はいりません。しかし、上達のためには毎日の自主的な練習が必要です。その上でレッスンに臨んで下さい。

【体験入試前期日程について】

Q 3 体験入試を受けるためには体験授業の受講が必要とのことですが、どうすれば良いですか？

A 3 ①まず、エントリーシートに必要な事項を記入し、エントリーシート送付期間内に保育科宛に送付して下さい。
②体験授業は平成22年8月21日（土）と平成22年9月11日（土）に行います。両日とも、午前・午後それぞれ個別面談と授業があります。例えば午前中に授業を受講した人は、午後に個別面談を受けることになります。（体験授業当日に指定します）
③体験授業受講者には「体験授業受講証明書」を発行しますので、出願書類に同封して下さい。

Q 4 体験授業はどのような内容ですか？

A 4 保育科の授業の内、表現系のA.ことば、B.音楽、C.美術、D.体育の中から一つ選んで受講します。内容はグループでの制作等の活動や子どもに関するテーマについてのディスカッションを中心としたもので、短大での学び方を体験していただきます。授業の最後に感想を書いていただきますが、試験ではないので気軽に参加して下さい。

Q 5 体験授業は2回行われるとのことですが、どちらか1回受ければ良いですか？また2回受けても構いませんか？

A 5 どちらか1回で受講して下さい。テーマは多少異なりますが、内容は同じです。

Q 6 保育科教員との体験授業における個別面談はどのようなものですか？

A 6 教員との体験授業における個別面談は約15分間です。体験入試を希望する理由を中心に、皆さんに保育科についてよく理解してもらい、これから何をしなければならぬか考えていただくことが主眼となります。質問や自分の考えを積極的に話して下さい。

Q 7 他の学科では、体験入試の後期日程がありますが、どうして保育科では行われなないのですか？

A 7 保育科では従来から自己推薦入試を実施していますので、体験入試の後期日程は行いません。

【推薦入試等について】

Q 8 推薦入試の選考はどのように行われるのですか？

A 8 国語基礎力調査、面接、ピアノを総合的に評価して選抜します。3つの内どれか一つでも特に劣るものがあると不利になります。調査書や推薦書の内容について面接の中で質問します。全体の評定平均値については、出願資格を満たしていればそれ以上は考慮しません。

Q 9 推薦入試を受けるための準備と注意は何かありますか？

A 9 ①ピアノについては募集要項に記載されている通りですが、実力以上に難しい曲を弾いて失敗するより、確実に弾けるものを選んで下さい。選んだ曲の番号でハンディを付けることはしません。また、併用曲を弾かないこと、バイエル教則本は標準版を使用することに注意して下さい。
②面接については主に人柄を見ますので特別な専門的知識は必要ありません。自分の個性が出るよう緊張しないで受けて下さい。

Q 10 推薦入試の「国語基礎力調査」はどのようなものですか？

A 10 漢字の読み書きと語彙力＝言葉の意味（例：四字熟語の意味、反対語、同義語など）が中心となります。漢字の読み書きは漢字検定準2級程度の内容です。50点満点、時間は30分です。

Q 11 推薦入試では、高校在学中の欠席日数は問題になりますか？

A 11 風邪などの普通の病気で当然考えられる欠席日数であれば、全く問題ありません。ただし、将来保育者として活躍するのに支障があると考えられる病気等の場合は、ある程度考慮せざるを得ないと考えています。

Q 12 大学入試センター試験利用入試の内容について教えてください。

A 12 保育科は大学入試センター試験の国語教科の「国語」、外国語教科の「英語」【筆記】の2科目の内から1科目を選択。国語・英語【筆記】の2科目を受験した場合は高得点の科目を利用します。
また、本学がセンター利用入試の際に利用する「国語」又は「英語」は200点満点を100点満点に換算して合否判定に使用します。

【コース制について】

Q 1 専攻楽器にはどんなものがあるのですか？

A 1 声楽、ピアノ、管弦打楽器専攻には、演奏コース、専門コース、総合音楽コースが設けられています。電子楽器専攻にはこの3コースは設けられていません。

Q 2 コース制のある理由は何ですか？

A 2 コース毎に特色を持った教育内容を設け、将来の希望に即した人材を育てることを目指しています。

Q 3 第2志望は必ず書かないといけませんか？

A 3 総合音楽コースを第1志望とした人以外は必ず書いて下さい。書いていない人は第1志望のコースだけで合否判定されます。(記入例) 第1志望：演奏コース又は専門コース 第2志望：専門コース又は総合音楽コース

Q 4 入学試験後のコース変更は可能ですか？

A 4 入学試験で判定されたコースは1年次の間には変更できません。

Q 5 入学後のコース変更は可能ですか？

A 5 可能です。1年次の学年末試験結果により変更が可能です。

Q 6 コース別、あるいは専攻別に定員があるのですか？

A 6 コース別に定員を定めてはいません。ただし、それぞれのコースには合格基準が設けられており、それをクリアしなければなりません。また、専攻別にも定員を定めてはいません。しかし、電子楽器専攻のように収容施設が限られているものには、おおよその収容人数の制限があるものもあります。

【体験入試（前期日程・後期日程）について】

Q 7 体験入試（前期・後期）を受けるには、音楽科夏期受験講習会を受講しなければならないと聞きましたが、詳しく教えてください。

A 7 音楽科夏期受験講習会を受講するだけでは受けられません。この講習会で行われる音楽理論実力テストと実技認定試演会の両方、もしくはどちらか一方を受けていなければなりません。これを受けると後日、音楽科よりその結果を知らせる認定証が届きます。この認定証を体験入試の願書に添付することで、体験入試の受験が可能となります。その際、認定証に音楽理論実力テストの結果と試演会の結果が明記されています。音楽理論実力テストの結果が良ければ、体験入試の音楽理論基礎力調査が免除となり、試演会の結果が良ければ、体験入試の専攻別実技試験が免除となります。また、どちらかの結果が試験免除認定を受けられなかったか、あるいはその両方が認定を受けられなかった場合は、認定を受けられなかった科目を体験入試で受験すれば良いということになっています。さらに、認定を受けたコースが自分の希望と異なる場合は、体験入試で改めて専攻別実技を受験し、コースの再評価を受けることもできます。

Q 8 認定証を無くしてしまった場合は受験することができなくなりますか？

A 8 認定証を無くしてしまって願書と一緒に提出できない場合は、本学入試課に申し出て下さい。本学で認定結果を保存しておりますので、再発行が可能です。しかし、受験に必要な書類ですから、くれぐれも大切に保管して頂くようお願いします。

Q 9 体験入試に合格すると、その後入学までに短大で専攻実技のレッスンを受けることができると聞いていますが、それはどのような方法で受けられるのでしょうか？

A 9 体験入試の合格者は、基本的に本科の音楽科で、合格後から3月末までに2回の専攻実技のレッスンとソルフェージュの音楽理論を無料で受けることができます。これは体験入試の合格者のみに行われるもので、入学試験から入学までに長い期間の空白があることから、入学前の準備のために行っているものです。できるだけ在学生のレッスンにも触れ、環境に馴染んでいただきたいとの願いも含まれています。

Q 10 合格後のレッスンはどの位の時間ですか？

A 10 1人1回に最低40～45分のレッスンが行われます。合格者とレッスン担当者との相談の上、日時を決定し、本学へ来ていただいてレッスンを行います。

Q 11 必ず2回のレッスンを受けなければならないのですか？

A 11 2回のレッスンを受けるチャンスがあるということで、本学まで遠い地域にお住まいの場合は、レッスン時間を長くにとって1回で行うことがあります。担当教員に相談してみてください。

【実技科目について】

Q 12 入学試験では、難易度の高い曲で受験した方が有利ですか？

A 12 どんなに難易度の高い曲を演奏しても、その演奏の完成度が不足していれば何にもなりません。それぞれのコースを選択するにあたり、自分の技術や表現の能力に合った適切な曲を選び、時間をかけて練習し、完成度を高めることこそが、良い結果が得られることとなるのではないのでしょうか。

Q13 常葉短大を受験するとしたら、短大の先生にレッスンを見てもらおう方が良いのでしょうか？

A13 必ずしも短大の先生からレッスンを受ける必要はありません。ただし、自分自身の能力が果たして備わっているかどうか、良く分かる先生のレッスンを受けることは必要でしょう。

§ 声楽専攻

Q14 声楽専攻に受験したいのですが、どのくらい経験が必要ですか？

A14 経験度よりも、短期間であっても中身の濃い習熟度によります。もちろん個人差もあり一概には答えられませんが、コンコーネなどの練習曲や古典イタリア歌曲等から数曲をマスターした程度です。コースによってはコンコーネ50番、オペラアリアの数曲を歌唱できることが望まれます。

§ ピアノ専攻

Q15 ピアノで受験したいのですが、途中でやめていた時期があります。このハンディは取り戻すことができますか？また、どのコースを選択すれば良いのでしょうか？

A15 空白期間は、やはりハンディとなることは免れません。しかし、これは適切な指導と練習量で克服できないことはありません。本学では受験講習会や1日体験入学、ピアノクリニックなども実施していますので、このような機会を利用したり、音楽科に連絡を取って、事前に相談されると良いでしょう。受験に向けての支援活動についての詳細は本学ホームページをご覧ください。

§ 管弦打楽器専攻

Q16 管楽器を専攻しています。試験場では楽器を温める時間を与えられるのですか？

A16 専攻別実技試験の前に練習と音出しの時間を設けています。

§ 電子楽器専攻

Q17 ヤマハとカワイどちらの機種でも受験可能ですか？

A17 はい。どちらでも受験できます。試験で使用する機種は、ヤマハのEL-900m、STAGEA、カワイのDT-9、ローランドのアトリエAT-800の4機種です。

Q18 初見演奏の内容はどのようなものですか？

A18 コードネームが指定されている簡単な旋律が課題として用意され、予見時間1分の後に、2コーラス伴奏を付けて演奏していただきます。この際、イントロダクションやエンディングは自由ですが、独創性や表現力を評価しますので、工夫してみる姿勢が必要でしょう。

Q19 自由曲はレジストレーションを設定しなければならないのですか？

A19 課題曲及び自由曲に関しても、事前に必要なレジストレーションを用意して下さい。なお、市販のレジストレーションの使用も可能ですが、XG（ヤマハ）、GM（カワイ）、GS（ローランド）等の音源によるサポート演奏の入ったデータは、使用禁止です。

【音楽理論基礎力調査について】

Q20 音楽理論基礎力調査ではどんな勉強をしておいたら良いのですか？

A20 音楽理論基礎力調査では、楽曲の知識と音楽史の知識がどの程度理解できているかを調査します。試験時間は50分、音楽用語・音程・音階・調関係・和音などの高校音楽の教科書に出てくる程度の問題と、音楽史ではやはり高校音楽の教科書に出てくる作曲家達の年代や、有名な作品について答える問題が出題されます。

Q21 今まで楽譜による出題傾向があったと聞きますが、今年も同じでしょうか？

A21 楽譜の抜粋を用いた形となります。

【音楽療法士資格・訪問介護員資格について】

Q22 音楽科で音楽療法士2種の資格、専攻科音楽専攻で音楽療法士1種の資格が取れると聞きますが、コースがあるのですか？

また、どうしたら資格が取れますか？

A22 音楽療法士の資格を取るための特別なコースはありません。規定の単位を取得することによって、全国音楽療法士養成協議会に資格申請をし、審査を受けて合格すると資格が認定されます。

Q23 音楽療法士の資格は誰もが希望すれば必ず取得できますか？

A23 残念ながら誰もが必ずという訳にはいきません。2種の資格を例に挙げると、本学の音楽療法士資格は全国音楽療法士養成協議会が認定した資格であり、この協議会の認定審査を受けなければなりません。また、学内でも1年次の終わりに音楽療法に関する科目や音楽専門科目、福祉系科目、医療系科目の成績や、面接等によって審査を行い、体験実習に行けるかどうか決定されるので、十分に研修を積む努力が必要です。

Q24 音楽療法士になるためにはどのくらい余分に科目を取らなければならないのですか？

A24 本科2年間で取得できる音楽療法士2種資格に関する科目は全て卒業単位に含まれる科目ですので、余分に取らなければならない単位はありません。専攻科音楽専攻で取得できる1種の資格に関しては、2種を本科で取得していなければならないと、さらに1種の資格に関する科目の内10単位分は、専攻科の専攻科目の他に余分に履修しなければなりません。また、この10単位は、修了要件の単位には含まれないので、本科の場合とは違うことに注意しなければなりません。

Q25 音楽療法は実際に施設に行って実習を行わなければならないのですか？

A25 その通りです。1年次の2月から3月にかけては保育所等観察実習が1週間、2年次9月には施設介護体験実習と、音楽療法体験実習が組まれています。さらに、10月から1月にかけて一般の施設に向けての自主体験実習が12日間組まれています。合計すると300時間にも及ぶ充実した実習が組まれており、四年制大学に勝るとも劣らない実習ができるようになっていきます。

Q26 音楽療法には特別な楽器が必要と聞いていますが、自分で用意するのですか？

A25 多くは短大で用意されている楽器を使用しますが、音楽療法に必要なギターは自分で用意します。また、ギターは初体験であっても最初から教えるシステムとなっていますので、ギターが弾けなくても履修することになります。

Q27 音楽療法士の資格を取得してどのような就職の道があるのですか？

A27 音楽療法の範囲はとても広く、養護施設や知的障害者施設、身体障害者施設、特別養護老人ホーム等、多くの分野があります。しかし、まだ音楽療法士の認知がされて間もないので、これから開拓される領域となります。音楽療法だけを業務とする職場は少ないので、作業療法士の業務や介護の業務も身に付けておかなければなりません。本学では、これらの科目も習得できるように配慮されています。

Q28 教員免許と音楽療法士資格は一緒に取れますか？

A28 短大2年間では無理でしょう。取らなければならない単位が多いので、時間割上困難となるからです。短大卒業後、専攻科へ進学して取得するなら可能となります。

Q29 音楽療法士2種の資格を取るまでにかかる費用はどのくらいですか？

A29 費用は3段階でかかります。

①1年次に保育所の観察実習が1週間あります。これにかかる費用は13,000円です。(平成22年度)

②2年次には介護・音楽療法体験実習が13日間組まれています。これにかかる費用は123,000円です。(平成22年度)
ただし、この金額には13日間の宿泊・食費が含まれています。

③全国音楽療法士養成協議会審査費(検定料)として、30,000円です。(平成22年度)

Q30 将来、音楽療法士の資格は国家資格になる見込みはあるのですか？

A30 様々な連絡・調整作業が進めれていますが、今のところ予定がありません。

Q31 音楽療法士1種の資格を取るにはどうしたら良いですか？

A31 音楽療法1種の資格は、全国音楽療法士養成協議会の認定を受けた四年制大学及び学位授与機構に認定されている専攻科音楽専攻を持つ短大で取得することができます。本学の音楽科は、既に学位授与機構に認定されている専攻科音楽専攻が設置されていますし、全国音楽療法士養成協議会の1種の認定も受けています。従って、本学専攻科へ進学すれば1種も取得できるわけです。

Q32 就職状況はどうですか？

A32 新しい資格の上、施設の雇用義務が無いことからまだまだこれから開拓するという状況ですが、音楽療法士の活躍の場は多岐に渡っています。医療・福祉・教育現場はもとより、現代社会におけるストレスを改善するためにも効果があると立証されており、この資格を活用できる職場には以下のようなものが考えられております。

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|
| ・養護学校 | ・病院 | ・知的障害者施設 | ・身体障害者施設 |
| ・デイサービスセンター | ・リハビリテーション病院 | ・老人福祉施設 | ・リラクゼーション施設 |
| ・公民館 | ・ホスピス | ・一般企業の心身健康管理 | 等々 |

本学では、これらの施設に個別アンケートを実施し、個別に施設訪問を行いながら就職の場を確保できるよう努力しております。

Q33 施設で働くには音楽療法士の資格だけで就職できますか？

A33 専任としての就職を考えると、現場での仕事は音楽療法だけという訳にはいきません。そこには作業療法士の仕事や介護の仕事などの内容が必要になり、加えて音楽療法士の資格がまだ国家資格になっていないために、十分なものとは言えません。しかし、全国的に見ると専任の職員として就職した実例があります。また、本学の教育システムは音楽療法士を育てるだけでなく、作業療法のノウハウも勉強できるように組まれておりますから、努力次第で道が開けると考えております。音楽療法士資格と合わせて訪問介護員2級資格も取得できるようになっています。

Q34 訪問介護員2級資格が取れると聞きましたが、どんな資格ですか？

A34 訪問介護員資格とは、通称ホームヘルパー資格と言っており、在宅介護を受けている方々をお世話する業務を行う資格です。今後ますます在宅介護を受けるような社会状況となっていく傾向にある今日、この資格を持って働く職場は増えることでしょう。先に述べましたが、音楽療法士資格はまだ国家資格ではなく、さらに国家資格となっても必ず施設に置かなければならないという資格になるかどうかは分からない現状ですが、訪問介護員は国家資格であり、施設の需要も増えておりますので、音楽療法士としての力を持って、さらに訪問介護員資格を取得しているということは、就職する際に大きな力となることでしょう。本学音楽科では、より良い音楽療法士の育成を目指すとともに、音楽療法士の職場を確固たるものにするべく、訪問介護員資格も取得できるようにした訳です。

Q35 訪問介護員2級資格を取るために、音楽療法士資格で必要な科目の他にたくさんの科目を履修しなければならないのですか？

A35 そんなことはありません。音楽療法士2種に必要な科目と、訪問介護員2級に必要な科目の多くが重複しているため、音楽療法士資格を履修する時の科目の中に含まれます。

Q36 訪問介護員 2 級資格だけを取ることはできますか？

A36 できます。本科 2 年次の 1 年間で取ることになります。

Q37 訪問介護員 2 級資格を取るまでにどの位の費用がかかりますか？

A37 訪問介護員 2 級資格のみの場合（平成22年度）

第 1 期 介護体験実習（デイサービス現場見学を含む）

7 日間の研修を行い、食費、宿泊費含みで 57,000 円

第 2 期 訪問介護サービス同行訪問実習（4 時間×2 日）

2 日間の研修で 3,000 円

第 1 期、第 2 期の全部で 60,000 円かかります

音楽療法士 2 種と訪問介護員 2 級資格を取得する場合（平成22年度）

音楽療法士 2 種の 13 日間の宿泊研修には、介護体験実習も含まれているので、両方を取得しようとする場合は、Q29 の音楽療法士 2 種の資格を取るまでにかかる費用に上記第 2 期訪問介護サービス同行訪問実習費 3,000 円が余分にプラスされるだけです。

Q38 専攻科に入ってから音楽療法士の資格を取る場合は 1 種の資格となるのでしょうか？

A38 違います。専攻科に入ってから音楽療法士の資格を取りたい場合は、本科の音楽療法士 2 種科目を履修することによって音楽療法士 2 種資格を取得することになります。もし、1 種を取得したいと思うならば 4 年間かかることになります。

Q39 専攻科に入ってから訪問介護員資格を取ることはできますか？

A39 できます。訪問介護員資格は、本学では原則的に 1 年間で取得できるようになっています。法令でも訪問介護員 2 級資格は 1 年半の間で履修しなければならないように定められているので、2 年間かかって取得することはできませんが、専攻科 2 年間の内で、いずれか 1 年間で訪問介護員 2 級資格を取得することはできます。